

# 渡邊洋治 生誕100周年 記念講演会・原図展

上越市出身の建築家・渡邊洋治の生誕100周年を記念し、ゆかりのスピーカーを招いて開催する講演会。貴重な原図も併せて展示します。世界的建築家ル・コルビュジェの孫弟子にあたり、「斜めの家」と呼ばれた渡邊の功績と人物像に迫らんとする地元有志による催しです。



2023年6月10日(土) 15:30 ~ 19:00 (15:00 開場)

定員50名 | 入場無料 | 事前申込制 | <会場> 直江津学びの交流館 1F イベントホール  
途中入退出可

◆プログラム ※プログラム及び予定時間は変更になる可能性がありますのでご了承ください

**第1部**  
15:40(予定) ~ 「渡邊洋治流デザイン作法(攻めとリカバリー)」  
佐藤武志/設計関連勤務、渡邊洋治事務局(甥)、一級建築士

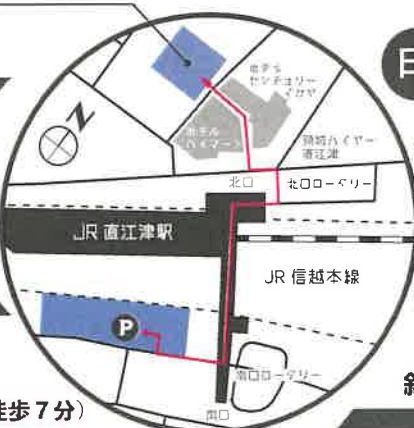
**第2部**  
17:00(予定) ~ 「渡邊洋治の建築との出会い:遠方からの研究」  
Josephine Buzzone/東京大学交換留学生 トリノ工科大学大学院博士課程在籍

**第3部**  
17:40(予定) ~ 「渡邊洋治と渡邊邦夫」  
鴨居貞明/建設会社在籍、一級建築士

**第4部**  
18:40(予定) ~ 「『斜めの家』の空間とデザイン」  
中野一敏/建築家、一級建築士、ナナメの会主宰

直江津学びの交流館  
1F イベントホール  
新潟県上越市中央1-3-18

**アクセス**  
えちごトキめき鉄道直江津駅  
北口より徒歩2分  
\*妙高はねうまライン  
\*日本海ひすいライン  
\*JR 東日本信越本線  
\*北越急行ほくほく線



**駐 車場**  
直江津駅南口駐車場  
100台【無料】  
(駅利用者とは共用、会場まで徒歩7分)

※学びの交流館1F事務室にて駐車券をご提示ください。  
※施設前駐車場は台数が限られております。講演会は長時間に渡りますので、他の施設利用者にお譲りいただき、南口駐車場のご利用にご協力をお願いします。  
※近隣駐車場への無断駐車は、絶対におやめください。

**申込方法**  
@233btbqp  
ナナメの会 公式 LINE アカウント (@233btbqp) からお申し込みください(2次元バーコード参照)  
※ナナメの会 e-mail からの申し込みも受付けております  
連絡先 e-mail : naname023@gmail.com

**主催** ナナメの会  
**後援** 斜めの家再生プロジェクト  
上越市、新潟県建築士会上越支部

**協賛**  
有限会社ハート一級建築士事務所  
株式会社大雅建築設計事務所  
地域住環境建築研究所  
有限会社くびき野建築設計室  
アトリエレイン建築研究所  
上越総合技術高校建築環境科 小林哲梅川康輝(記者)  
ナカノデザイン一級建築士事務所

1923（大正12）年6月14日に、新潟県上越市（旧直江津市）に大工の棟梁の長男として生まれました。高田商工学校（現・県立上越総合技術高等学校）を卒業し、日本ステンレス直江津工場に就職。太平洋戦争中は船舶兵として徴兵され、陸軍予備士官学校卒業後、新潟・日本海船舶司令部に勤務します。

戦後は日本ステンレスに復職した後に上京し、1947（昭和22）年～1954（昭和29）年、久米建築事務所（現・久米設計）に勤務。1955（昭和30）年から3年間、早稲田大学吉阪研究室助手を務め、ル・コルビジェのもとから帰国したばかりの吉阪隆正に師事しました。1958（昭和33）年に独立して、渡辺建築事務所を開設しました。

代表作は善導寺（糸魚川市）、第3スカイビル（東京）、龍の砦（静岡）などがあり、1969（昭和44）年最高裁判所庁舎設計協議優秀賞など、建築設計競技で沢山の入賞を果たしています。海外でもその名を知られるようになった渡辺は、1979（昭和54）年にニューヨーク近代美術館の展覧会に出展。1983（昭和58）年には、アメリカ・モンタナ州立大学、ニュージーランド・オークランド大学で招聘講演を行っています。1983（昭和58）年11月2日に急逝、享年60歳でした。2023（令和5）年は、生誕100周年にあたります。



善導寺 (糸魚川)



第3スカイビル  
(現・GUNKAN 東新宿ビル)

### 「斜めの家」とは

『コルビュジェ派の木造住宅という、レーモンドの「夏の家」(1933) 前川國男の「自邸」(1941)、増沢洵の「自邸」(1952)、吉村順三の「軽井沢の山荘」(1962)の四作をもって時期ごとの代表作とし、それでごたれりとしてきたが、そこで終わらず、それに引き続くものとして、渡辺洋治の「斜めの家」を加えてもいいんじゃないか。』  
出典：藤森照信の原・現代住宅再見2 (TOTO 出版)

1976年に建てられた渡辺洋治の妹夫婦のための住宅で、渡辺最後の実作です。生前はほとんど知られることがなかった隠れた名作が、上越市内に現存しています。階段のない2階建ての住宅は、1階と2階をつなぐスロープの傾きが建物外観の特徴になっており、「斜めの家」の名前の由来となったと考えられます。建築家・建築史家の藤森照信はコルビュジェ派の木造住宅の代表作のひとつとして評価しています。



## 泊まれる名建築を目指して～クラウドファンディング始動

2013年、空き家になっていた「斜めの家」を保存活用する再生プロジェクトが、東京在住のオーナーと上越の有志によって始まりました。設計当時を知る関係者にお話を聞いたり、見学希望者と交流したりするなかで、更に「斜めの家」や渡辺洋治について知っていただきたい、理解を深めていただきたいという思いは強まりました。そして今後、宿泊体験ができる建築として「斜めの家」を活用していこうと構想しています。

築40年以上たち傷みが目立ってきた「斜めの家」を、渡辺洋治が設計した原型を尊重して改修することで、大胆な外観だけでなく、使いやすく考えられた造作や、立体的なコミュニケーションを生む内部構造を、よりご理解いただけるようになりますと期待しています。間もなく改修費用のためのクラウドファンディングがスタートします。多くのご支援いただけますと幸いです。



ナナメの会 Instagram



ナナメの会 Facebook

見学やイベント情報発信中！